

静岡県図書館協会会報

No.86 令和7年7月31日発行

ISSN 1344-5154

編集・発行 静岡県図書館協会 静岡市駿河区谷田53番1号 静岡県立中央図書館内



一直線に並んだ書架：東都大学附属図書館沼津分館

「大切な役割」

沼津市立図書館館長

久保田 弘行



今年度、本協会の副会長を務めさせていただくこととなりました。よろしくお願いいたします。

「新聞を読むことは、社会人の常識です」研修で何度も聞いた記憶がありますが、最近は若い人をはじめ新聞を読まない方が増えていきます。

ニュースアプリ等により、リアルタイムで無料かつ手軽なことから、紙媒体の新聞には必要性を感じないようです。

文字媒体を読む習慣自体が減少する活字離れの動きは、図書館利用者の減少にも影響を与えるとともに、多くの弊害が危惧されています。

スマホの普及により、簡略化された動画やニュース、短文のSNS投稿に依存した断片的な情報や、興味ある分野に情報の偏りが見られ、論理的思考や理解力が弱まり、結果、誤情報や偏った情報に影響されやすくなる危険性があります。

これは、個々人だけに留まらず、曖昧な根拠や一方的な主張を容認し、混乱が生じている現在の世界情勢に少なからず影響していると思います。

デジタル化や生活スタイルの変化の中、特効薬はないですが「読書習慣を奨励し、活字を通じて学ぶ楽しさや、その重要性を広める

努力が重要」とのことです。

そのためには、気付いてもらうのを待つのではなく、積極的かつ効果的な情報発信を行い、図書館の今を知ってもらい、印象付け、図書館推しを増やす地道な努力が必要だと思います。

図書館の仕事は、ただ本を貸し出すだけでなく、人々の好奇心を育み、心を豊かにし、知識の扉を開くという重要な役割を担っています。

また、新しい世界への架け橋を提供し、将来を思い描ける場所であり、人生を変える力を持っています。

デジタル化が進む中でも、図書館はその変化を取り込み、進化する力を持っています。

図書館を必要とする人々の声を支えに、図書館に関わる一人一人の努力で、新たな図書館の役割を築いていくことが可能です。

図書館職員の皆さんの仕事は、社会に果たしている意義を胸に、これからも人々の学びと成長を支える光であり続けて頂きたいと思っています。

新任の私も、一日も早く仲間に加えて頂けるよう努力して参りますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

子供の読書活動優秀実践図書館 文部科学大臣表彰



長泉町民図書館 本、大好き!ながいずみの子



長泉町は人口約4万3千人の町で、長泉町民図書館の蔵書は約14万冊です。書架や蔵書、職員の数では近隣の大きな市立図書館には到底ありませんが、駅前の好立地であり、多くの皆さんにご利用いただいています。子育ての町、長泉として、児童室の環境整備や児童書の充実に力を入れており、児童の利用者・児童書の貸出冊数の比率が多い図書館となっています。

昨年9月には電子図書館を開設し、児童書の電子コンテンツを積極的に導入しました。町内には3つの小学校と2つの中学校がありますが、小中学生が自力で図書館に通うには少し距離がある学校もあります。読書離れが進むといわれる小学校の高学年以上を対象とした読み放題の電子コンテンツも購入しており、図書館に来られなくても読書に親しめるようにと願っています。今後は地域資料の電子化や大人向けの電子資料も増やしていきたいと思っています。

学校図書館との連携では授業に役立つ資料の整備を始め、団体貸出として活用してもらっています。また、調べ学習などに使えるように17のテーマのパスファインダーを作成し、これか

らも新しいテーマを増やしていく予定です。

この他、子どもが本に親しむきっかけづくりとして、おはなし会をボランティアの方々をお願いするだけでなく、一昨年から未就園児対象のおはなし会を図書館職員が毎週開催するようにしました。絵本や紙芝居の読み聞かせのほかに、手あそびや布あそびも取り入れ、親子で楽しんでもいただけるプログラムを用意しています。これは、おはなし会のための選書や練習などを通じて、図書館職員の資質の向上にも役立っていると思っています。

また、図書館閉館後のおはなし会を春・夏・冬に開催しています。これは小学校中学年くらいからを対象とし、大人の方も楽しんでもらえるように語りを中心に朗読や絵本の読み聞かせを取り入れ、昼間では難しい、落ち着いた雰囲気を出しています。

この度いただいた「子供の読書活動優秀実践図書館」の表彰を励みに、今後も一層、努力していきたいと思っています。

(長泉町民図書館 司書 松澤ユカリ)



未来のナースたちが集う青い図書館

東都大学附属図書館 沼津分館は 2021 年 4 月に東都大学沼津キャンパス ヒューマンケア学部看護学科の開学と同時に東都大学 3 館目の附属図書館として開館をしました。

元ホテル（旧ホテル沼津キャッスル）だった建物を大学として使用しているため、図書館は結婚式場の跡地にあたり、開架閲覧室 1 は、ホテル当時は新郎新婦が会場に向かう時の参道として利用されていたようですが、現在は、その参道を利用し、一直線に並んだ書架に基礎医学から看護の基礎、看護専門領域の図書が配架され、その前には学習机が書架と並行して並んでいます。一見ウナギの寝床を連想させますが、長く長く連なる机は圧巻で、毎年新入生に驚かれます。また、4 限の授業終了後（16 時半以降）には、窓から美しい夕焼けと赤富士も楽しめます。結婚式場の参道を図書館として利用している所は日本の図書館の中でもこのキャンパスだけではないかと思われます。大変ユニークな図書館として教職員・学生からも親しまれています。

図書館内にあるグループ閲覧室も元々神前式場でしたが、現在ではグループ閲覧室とともにラーニングcommonsとしても併用されています。



利用者が落ち着いてくつろげるように温かみのある雰囲気合わせた木目調のイスと机を配置し、自由自在に組み合わせ可能となっています。グループワークやミーティング、個人学習等、幅広く活用されています。

また、開架閲覧室 2 は国家試験対策コーナーや参考図書、視聴覚資料などが並んでいます。

開学当初からしばらくは、旧ホテルのままの床と壁でしたが、2024 年度から今年度にかけてリニューアルし、沼津の海と富士山をイメージした爽やかなブルーの図書館へと生まれ変わりました。リニューアル後、青一色となったこの閲覧室に多くの学生から歓声が上がるほどでした。学内では「青い図書館」として大学、そして図書館の象徴的な空間となっています。

この青い図書館に多くの学生が集い、学び、いずれ看護師として社会に貢献できるように開館 5 年目を迎えた今、日々学生とともに図書館も大きく成長していきたいと思ひます。

（東都大学附属図書館沼津分館 司書 中山 祐子）

熱海市立図書館の改修工事が終了しました！

熱海市立図書館は本年11月10日で開館110周年を迎えます。当館の歴足は古く、大正4年に熱海に居住していた坪内逍遙博士から寄贈された蔵書約3,000冊と町の有志の方々による多大な支援により熱海尋常高等小学校内に町立熱海図書館として開館したのが始まりです。また、現在は観光名所の来宮神社や大湯間欠泉に近いので、一般利用者だけではなく観光客も頻繁に訪れています。

現在の図書館は平成19年から民間所有建物を借り受けて運営していますが、老朽化により空調設備の故障が頻発していました。特に6～8月にかけては、何度も故障を繰り返し、連日30度を超える気温の中で冷房が効かない状態で数週間を過ごすことは、図書館として危機的な状態であり、来館される利用者や従事する職員の体調面での不安が増大していました。昨年4月からおよそ1年かけて行われた空調設備等の改修工事は、令和7年3月に完了し3月21日からは通常開館を再開させることができました。

この工事が始まる前に最初に考えたことは、高齢者の憩いの場所となっている図書館を「長期休館させない」、「夏休み期間中は通常開館する」の2点でした。工事施工にあたり懸案となったことは、建物構造が3つの階に分かれているため、「どの階から工事を始めるのか」と各階の

開架資料と8箇所に分散している書庫資料を含む約19万点の資料の保管場所の確保です。幸いにも建物1階の空きスペースを確保できたことから、3階、5階、4階（入口階）と順番に工事を行うことで、進捗状況によりそれぞれの場所から資料を移動させ、終了後に書架に戻すことを繰り返すことで、入口階の工事期間を除き制限をかけつつも開館を継続させることができました。

寒い時期に行われた4階の工事期間では予約貸出カウンターを玄関付近に設けたことで、利用者から予約を受けた殆どの資料を提供することができましたが、その際に「寒いのにいつもありがとう」と喜ばれると、職員に苦勞を掛けましたが達成感がありました。

新しくなった図書館では、利用者自ら目的の資料にたどりつけるような排架に変更しました。具体的には市民の利用が多い小説や随筆など「読み物」に関する9類資料を入口階の4階にまとめ、静かな環境で調べ物ができる3階には1～8類と館内利用の参考書を並べました。また、書架の棚板を減らし書棚に余裕をもたせることで、全体的に明るい図書館に変貌したと思います。

熱海に観光で訪れた際には当館にもお立ち寄りいただき、海の眺望を楽しみながら読書を楽しんでいただければ幸いです。

（熱海市立図書館館長 小林 啓一）



令和7年度 静岡県図書館大会

日時 令和7年12月1日(月) 午前10時00分から午後3時30分まで(第6分科会のみ午後5時まで)
会場 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ(〒422-8005 静岡市駿河区東静岡 2丁目3-1 JR 東静岡駅隣接)

日程

(1) 全体会

10:00 ~ 10:30 開会式・表彰式

10:45 ~ 12:15 講演会「公共図書館と新刊書籍市場の曖昧な関係：図書館の蔵書傾向および書店支援」
講師 大場 博幸氏(日本大学文理学部教育学科教授)

(2) 分科会

13:30 ~ 15:30

第1分科会 「みんなの図書館とまちづくり」
講師 土肥 潤也氏(みんなの図書館さんかく館長)

第2分科会 「誰もが楽しめる電子図書館～将来性と活用のヒント～」
講師 家禰 淳一氏(愛知大学文学部人文社会学科教授)

第3分科会 「へなそうるの森から くらしと物語」
講師 渡辺 鉄太氏(児童文学者・翻訳家)

第4分科会 「POP王に学ぶ! 学校図書館で活かす POP の力」
講師 内田 剛氏(ブックジャーナリスト)

第5分科会 「図書館と展示～企画展示が導く知識との出会い～」
講師 河合 郁子氏(東京都足立区図書館 サービスデザイン担当課長)
堀場 ひろし氏(静岡文化芸術大学 デザイン学部デザイン学科教授)

第6分科会 「本県の読書推進に向けて」
講師 河口 雅哉氏(第12回静岡書店大賞事務局長)

「(未定)」
講師 大谷 康晴氏(青山学院大学コミュニティ人間科学部コミュニティ人間科学科教授)

「研究協議」
司会・コーディネーター 大場 博幸氏
パネリスト 河口 雅哉氏・大谷 康晴氏・高橋 健二氏(静岡県立中央図書館館長)



令和6、7年度 静岡県図書館大会 運営委員から

図書館大会の運営委員は2～3人のグループで講演会や分科会の内容・講師の選定、資料の確認や大会当日の運営を行います。

令和6年度、私は図書館サービス分野の第2分科会で「つながる信州の図書館」という題で図書館のデジタルサービスに関する講演を担当しました。最初はどのようなテーマがいいか、どの講師にお願いすればいいかもよくわからず、パートナーの運営委員さんと相談しながら、講師の依頼、講演内容の調整などを行いました。日々の業務の合間を縫って打ち合わせや確認をする

ことも多く大変でしたが、多くの方の参加のもと無事に終えることができた時は本当に運営委員をやってよかったと思います。

今年度は全国公共図書館研究集会(サービス部門/総合経営部門)も兼ねた大会です。図書館に関わる全ての方に有意義な大会になるよう尽力しますので、令和7年度静岡県図書館大会も多くの方の御参加をお待ちしています。

(静岡市立中央図書館 主任主事 飯田 幸)



公式Xやってます!



静岡県図書館大会 (@tosyokan_taikai)
静岡県図書館協会 (@stosyokankyokai)

Follow us!

